

令和5年度 第2回海洋技術フォーラムシンポジウム プログラム  
～今こそ求められる極域の科学技術～

開催趣旨：

極域（北極・南極）の変化は地球環境に、ひいては社会経済活動に大きな影響を及ぼす。そのため、極域の研究・技術開発は、第4期海洋基本計画、第6期科学技術・イノベーション基本計画、G7科技大臣会合コミニケなどでも大きく取り上げられているように、我が国の重要施策の一つである。一方、近年、北極においては、ウクライナ情勢による国際連携や利活用の停滞・後退など取り巻く状況に大きな変化があり、我が国の研究開発活動への影響は避けられない事態となっている。しかし、中長期的な視点にたてば極域の社会的な重要性は何ら変わるものではなく、国益の確保はもちろんのこと、人類全体の未来のために、引き続き研究開発活動を進展させなければならない。

本シンポジウムでは、極域に関わる研究開発を我が国の重点戦略として継続的に振興させるため、当該分野の第一人者による講演とパネルディスカッションにより、今こそ求められる極域の科学技術について議論し、これを広く社会に提言することを目的とする。

日時：3月11日 13：00-17：10

会場：ウェビナー方式

参加費：無料

参加申込み：以下の URL からお申し込みください。参加お申込みいただいた方にウェビナーURL を送付いたします。

<https://lemons.k.u-tokyo.ac.jp/symposium/2023kaiyou2.html>

プログラム：

13：00-13：05

開会の辞： 佐藤 徹 海洋技術フォーラム 代表、東京大学 教授、総合海洋政策本部 参与

13：05-13：10

趣旨説明：早稲田 卓爾 東京大学 海洋技術環境学専攻 教授

13：10-13：15

来賓挨拶：黄川田 仁志 様 衆議院議員、自民党海洋総合戦略小委員会 事務局長

13：15-14：30

第1部：「極域をとりまく現状」各25分

1. 「我が国における極域研究政策」

原田 尚美 氏 東京大学大気海洋研究所教授、総合海洋政策本部 参与

2. 「日本の極域研究の進展と求められる国際的役割」

榎本 浩之 氏 国立極地研究所 副所長・教授、ArCS2 プロジェクトディレクター

3. 「北極海をめぐる地政学 ― 過去、現在、未来」

大西 富士夫 氏 北海道大学北極域研究センター 准教授

14：30-16：00

第2部：「今後進めるべき極域研究に必要とされる海洋技術」各20分

1. 「北極航路研究の現状と課題」

宇都 正太郎 氏 北海道大学北極域研究センター 特任教授

2. 「北極域研究船の建造と運用準備」

赤根 英介 氏 海洋研究開発機構 北極域研究船推進部 部長

(休息 10 分)

3. 「北極域における次世代測位補強システムの利用」

高橋 透 氏 電子航法研究所 航法システム領域 主任研究員

4. 「北極海水下ドローン「COMAI」の技術～海水下観測とナビゲーションへの新たな挑戦～」

吉田 弘 氏 JAMSTEC 北極環境変動総合研究センター グループリーダー

16：00-17：00

パネルディスカッション「今だからこそ必要な極域研究・技術開発」

モデレーター：早稲田 卓爾 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

宇都 正太郎 氏 北海道大学北極域研究センター 特任教授

山内 豊 氏 ジャパン マリユナイテッド株式会社 技術研究所水海研究グループ

巻 俊宏 氏 東京大学生産技術研究所 准教授

吉田 弘 氏 JAMSTEC 北極環境変動総合研究センター グループリーダー

松沢 孝俊 氏 海上技術安全研究所 流体設計系 主任研究員

17：00-17：10

閉会の辞：河野 健 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 理事

主催：海洋技術フォーラム

協賛：一般社団法人日本プロジェクト産業協議会、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所

後援：内閣府 総合海洋政策推進事務局、海洋産業タスクフォース、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所